

# 広報

# 九州



国民の森林・国有林

令和4年12月10日

(2022年)

No.1810

九州森林管理局

〒860-0081

熊本市西区京町本丁2-7

IP電話:050-3160-6600(代表)

<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/>

## 森林・林業の技術交流発表大会を開催

10月25・26日の両日に亘り、熊本市・くまもと県民交流館パレアにおいて「令和4年度森林・林業の技術交流発表大会」を開催し、九州各県の森林・林業関係者や森林・林業を学ぶ高校生、森林管理局署等の職員など200人を超える関係者が参加しました。

発表大会では再造林の低コスト化、早生樹の活用、作業の効率化や軽労化を旨とするICTの活用や機械化、林業担い手の確保、シカ被害対策の新たな取り組み及び地域材を利用した新商品の開発など27課題（一般の部22課題・高校生の部5課題）の発表がありました。

この発表大会は九州林政連絡協議会が主催し、産・学・官の森林・林業関係者が日頃取り組んでいる活動の成果を発表し、技術の交流や情報交換を行うことにより、森林・林業の活性化を図ることを目的に開催しているもので、今回で28回目となります。

1日目は、同協議会会長の九州森林管理局 矢野彰宏局長より、「昨年

開催することができて大変喜ばしい大会となった。一方、今年も大雨や台風等により九州・沖縄で被害が発生しており、今後の復旧に向けては県、市町村と連携・協力し、国有林もしっかりと取り組んでまいりたい。現在、人工林資源が充実してきており、主伐に伴う再造林が課題となっている。また、木材自給率が4割を超えていることから、引き続き木材



挨拶される矢野会長

の安定供給に努めていくことも必要。このような中、昨年、国の森林・林業基本計画が改定され社会経済の向上とカーボンニュートラルに寄与するグリーン成長を旨として行く方向性が示され、新しい技術を取り入れた伐採から再造林、保育の収支をプラスに転換できるような新しい林業を旨とすることが明記された。今回の発表課題を見ると新しい林業に通じる課題もあり、また民有林、国有林で様々な自主的な取り組みがなされ、その成果を発信していくことはとても意義のあることだと思っている。本大会を通じて森林・林業・木材産業の皆様の交流が益々盛んになることを祈念する」と挨拶がありました。昨年まで2会場での発表を行って



一般の部の発表状況

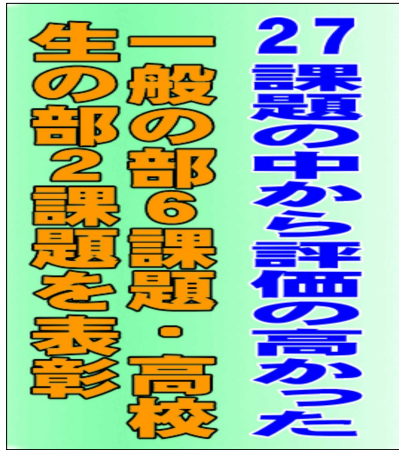


高校生の部の発表状況

いきましたが、今回は一般の部（森林技術部門、森林保全部門、森林ふれあい部門）と高校生の部を1つの会場で発表をおこなうこととなり、1日目は一般の部14課題の発表を行い、2日目は一般の部8課題と高校生の部5課題を発表しました。

その後、（国研）森林研究・整備機構 浅野透理事長より「森林の生物多様性はなぜ大切なのか？」というタイトルで特別講演を開演して頂きました。

最後に、審査委員長の（国研）森林総合研究所九州支所 塔村真一郎支所長より各発表について審査講評があった後、九州林政連絡協議会長



賞（一般の部・最優秀賞2課題、優秀賞4課題）及び九州森林管理局長賞（高校生の部・最優秀賞1課題、優秀賞1課題）の発表があり受賞者へ表彰状を授与し、2日間に亘る発表大会を終了しました。

（担当＝技術普及課）

「令和4年度森林・林業の技術交流発表大会」において、受賞された課題と発表者は次のとおりです。

- 【一般の部】
- 九州林政連絡協議会 会長賞  
最優秀賞（2課題）
- ☆自然環境に配慮したシカ対策くシカネット回収から再生利用  
宮崎森林管理署 都城支署  
増井 琴羽、田吹 涼太  
坂本 徹也、濱崎 建至
- ☆九州地域における低密度植栽の検証について  
九州森林管理局 森林技術・支援センター
- 岩下 正斉、大寺 義宏



受賞者の皆さん

山形 良平  
優秀賞（4課題）

◇南限域の紫尾山に分布するブナ林保護の取組  
北薩森林管理署  
田島 尚、塩崎 暢彦  
溝口 英聖

◇球磨地域の100年後の森林を考える  
「次世代につなぐ球磨の森づくりルール」

- ル」による取組について  
熊本県南広域本部 球磨地域振興局  
岡部 幸輔
- ◇ひとつのカメラから広がる未来  
現地を360度見える化  
宮崎森林管理署 都城支署  
中川 隆之、長谷川 京香  
坂本 徹也
- ◇西米良村における林業担い手の確保に向けて  
宮崎県 児湯農林振興局西米良駐在所  
西田 太一、河野 浩生
- 【高校生の部】  
最優秀賞（1課題）
- ☆『がんばろう！人吉・球磨』地域資源を活用した木育活動の実践  
熊本県立南稜高等学校（総合農業科・環境コース）
- 松崎 宗太、島崎 優雅  
蓑田 志織、西田 莉音  
嶽本 龍、福山 幸毅  
橋本 讓希、千代島 美香
- 優秀賞（1課題）
- ◇林業のチカラ×ふくしの心  
く山都町の木材を活用した福祉用具の開発  
熊本県立矢部高等学校（林業科学科）
- 龍 伸弥、山下 堯斗  
竹岡 風馬、松田 大地  
上田 航輝、坂本 琉皇  
森崎 仁崇、堂上 千颯

# 第45回全国育樹祭が大分県で開催

11月12日から13日にかけて、「豊かなおおいた 森林を育み 木と暮らし」をテーマに、第45回全国育樹祭が大分県内の各地で開催されました。大分県で開催されるのは、昭和52年第1回全国育樹祭（別府市）以来、45年ぶり2回目となります。

12日の大分県民の森平成森林公園（豊後大野市）で開催されたお手入れ行事には、約400人が参加し、平成12年に上皇上皇后両殿下がお手植えされたアカガシやカツラを秋篠宮皇嗣皇嗣妃両殿下がお手入れされました。また、大分市では育林交流集会と全国緑の少年団活動発表大会が開催されました。

お手入れ行事と全国緑の少年団活動発表大会に、九州森林管理局から矢野彰宏局長が来賓として出席し、また、全国緑の少年団活動発表大会には、大道一浩森林整備部長が、全国で活動する緑の少年団の代表として発表を行いました。

翌13日は、昭和電工武道スポーツセンター（大分市）で式典行事が開催され、3,300人が参加しました。



緑の少年団にお声をかけられる秋篠宮皇嗣皇嗣妃両殿下

(写真提供：大分県)

式典では、秋篠宮皇嗣殿下のおことばに続き、緑化等功労者への表彰、野中厚農林水産副大臣から全国の緑の少年団へ緑（苗木）の贈呈と大分県代表緑の少年団の活動発表がありました。

また、おもてなし広場には、大分森林管理局が出展し、パネル展示と



大分署の展示会場

ドローンで撮影した名山及び自然休養林、森林整備事業や治山現場を上映して国有林の取組等を紹介しました。

別府市志高湖で開催された2022森林・林業・環境機械展示実演会（別府市）では、最新の林業機械・器具や安全装備等の展示があり、局から参加した職員も最新の機械を体験できる良い機会となりました。

全国育樹祭の式典行事及び併催行事へは、九州森林管理局、大分西部森林管理署、大分森林管理署等の職員が参加し、大会成功の一翼を担いました。

（担当＝技術普及課）

## 宮崎自然休養林のロゴマーク&キャッチフレーズが決定

【宮崎森林管理署】

宮崎自然休養林保護管理協議会（事務局・宮崎市）では、多くの皆さんに宮崎自然休養林のことを知っていただき親近感を持ってもらうため、本年5月の本協議会総会において宮崎自然休養林のロゴマークとキャッチフレーズを作成することとし、ロゴマークは地元校である鏡洲小学校に作成依頼、キャッチフレーズは宮崎市民を対象に一般公募を行うことを決定しました。

その結果、ロゴマークは鏡洲小学校による4候補作品の中から、キャッチフレーズは97の応募作品の中から選考委員会において各1点を選考し、11月6日に鏡洲小学校において、両作品の発表・表彰式が行われました。

発表・表彰式は、地元鏡洲地区住民等多数の参加をいただいた中で開催され、作品選定の経緯説明等を行った後、本協議会の小林会長から選定に協力いただいた鏡洲小学校長とロゴマーク作成者（同校福田七柚さん）



に木製の感謝状と副賞、キャッチフレーズ作成者にも同様の表彰状と副賞が手渡されました。

また、宮崎森林管理

署の山口輝文署長からの「ロゴマークとキャッチフレーズが作成されたことを機に、宮崎自然休養林の素晴らしさをより多くの方々にPRしていきたい」との挨拶に対し、ロゴマーク作成者の福田七柚さんは「加江田溪谷の遊歩道沿いに可憐に咲いているキバナノホトトギスの花をモチーフにデザインした」、キャッチフレーズ作成者の平井信太郎さん（代理出席）からは「今後も宮崎自然休養林や加江田溪谷の素晴らしさを世界に発信してほしい」との思いを述べられています。

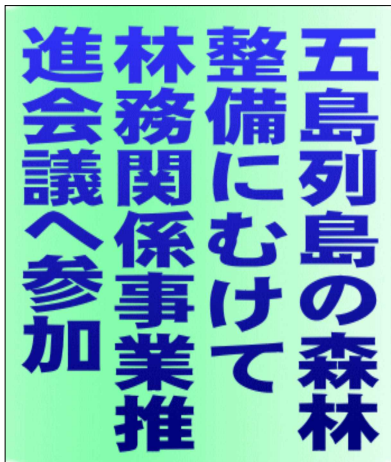
この度作成していただいたロゴマークとキャッチフレーズは、宮崎自然休養林のシンボルである双石山をはじめとする深緑の山々、溪流、奇岩・巨岩等からなる雄大で美しい自然や景観をイメージさせる作品です。こ

## すみわたる緑へのダイブ 宮崎自然休養林

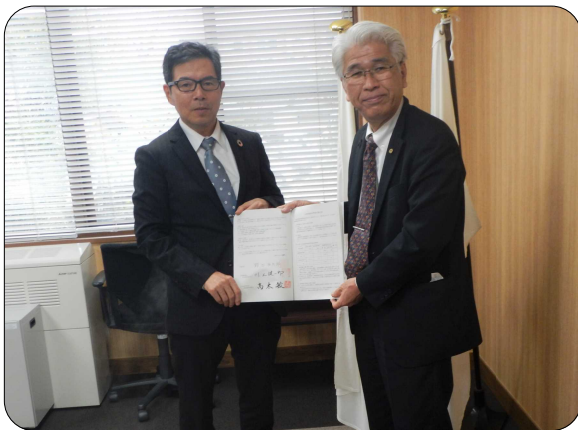


ロゴマーク（上）、キャッチフレーズ（中）  
表彰者の皆さん（下）

のロゴマークとキャッチフレーズは宮崎自然休養林を訪れる方々に親しんでいただき、宮崎自然休養林のPRとなるよう様々な場面において活用させていただく予定です。



【長崎森林管理署】  
NHKの連続テレビ小説「舞いあ



五島市と森林整備推進協定を締結

がれ！」の舞台でもある五島列島は、九州の最西端、長崎港から西に100kmに位置し、大小あわせて150あまりの島々が連なり、島の森林率は64%（人工林率44%）と長崎県下でも森林資源が豊富で、山と海のコントラストが美しい島です。

離島であるが故に島の林業は、後継者不足や島内に木材需要先が少ないなど非常に厳しい状況にあり、年間6千m<sup>3</sup>程度の素材生産があります。一方で未利用資源として林内に放置されている木材も少なくありません。

そんな中、11月10日に島内で森林・林業に携わる関係者が一堂に会した林務関係事業調整会議が行われ、福江森林事務所の渡瀬博美首席森林官が出席しました。



10月に開催された五島市森林のつどい

島市・上五島町・長崎県林業公社・五島森林組合・長崎森林管理署から今年度の事業の進捗や今後の計画などが報告され、意見交換が行われました。また、離島活性化交付金を活用した島外出荷と港湾土場の利用促進について、関係者から要望がありました。

長崎森林管理署からは、県内のシカ被害の現状と今後危機感を持つて被害拡大の阻止することの重要性について地域住民への周知を依頼するとともに、現在当署・五島市、五島森林組合で締結している森林整備推進協定の全島への拡大の可能性などについて、引き続き検討していくことを要請しました。

引き続き、五島列島を管理する森林官として、様々な場を活用しながら、離島の林業活性化に少しでもお

# 一ツ瀬川流域の 森林整備促進に むけた連絡会議 を開催



林務関係事業推進会議の状況

役に立てるよう、民有林関係者との連携に努めてまいります。  
機会がありましたら、是非潜伏キリシタンや遣唐使、海外交易の拠点でもあった歴史ある五島に来てください。

【西都児湯森林管理署】

11月18日、宮崎県高鍋町総合庁舎において、一ツ瀬川流域森林整備連絡会議を開催しました。

この会議は当署に事務局を置き、一ツ瀬川流域に關係する県、各市町村、林業事業者から20名が参加しました。

冒頭、渡辺浩司森林技術指導官が「一ツ瀬川流域における活動促進や市町村森林整備計画等の円滑な策定と民国連携による森林整備の一層の促進にむけた意見交換を行っていきたい」と挨拶しました。

会議では、得に林業に携わる行政担当者スキルアップを図るため、森林施業や山の見方に関して①森林施業（育成単層林、育成複層林、天然生林へ導くための施業）、②入林の際の留意点、③現地での森林の見方（踏査のポイント）、④主な樹種、植生の4項目について講話を行いました。出席者からは「現地での検討会もしてみたい」との意見があがりました。

また、情報共有の場面では、ドローンを活用した森林施業について意見交換し、出席者から「調査などの仕事の効率化のためにドローンを活用していきたい」と話がでるなど、デジタル技術の重要性を再確認しました。

今後も、一ツ瀬川流域森林整備連絡会議の取り組みを充実させ、流域内における民国連携を推進することとしています。



連絡会議の状況



講話する渡辺森林技術指導官

# 県南林業3校に よる「シカ被害 対策に係る学習 会」で講話

【熊本南部森林管理署】

10月28日に、熊本県県南広域本部と県南の林業系高校3校（八代農業高校泉分校、芦北高校、南陵高校）が取り組んでいるシカ被害対策学習の一環として、3校の2年生90名を対象とした「シカ被害対策に係る学習会」が芦北高校の鏡山演習林において開催されました。

当日は、農家ハンターとして活動する株式会社イノP、芦北町地域おこし協力隊、水俣市農林水産課、当署からは川口文明森林技術指導官が講師として招かれました。

学校の垣根を超えて林業に関する学習会を一緒に開催したのは、今回が初めての取り組みです。

学習会では、県南広域本部林務課長の挨拶の後、株式会社イノPから「自分たちの山は自分たちで守る」をテーマに、田畑のシカ被害状況やICT技術を用いて捕獲を映像で知らせる装置などについての講話が行われました。



熱心に講話を聞く生徒の皆さん

また、地域おこし協力隊からは、芦北町でシカの生息頭数が著しく増加していること、水俣市からは、サーモカメラを搭載したドローンによる調査などについて、川口文明森林技術指導官からは、管内の概要及びシカ被害の状況、特にシカ被害が甚大な白髪岳国有林において平成17年度から実施している「シカ防護ネット設置事業による効果と今後の対策」などについて講話が行われました。

昼食には、株式会社イノPからシシ汁が参加者全員に提供され、おかわりをする生徒も多くジビエをより身近に感じてもらえる機会となりました。

午後からは3校の生徒を10班に分け、演習林内で特に目立つ樹木の皮はぎの被害について、樹種、本数を

# 穂北小学校で木と子供のふれあい教室を開催



演習林での体験実習

記録し、調査アプリに登録する体験実習が行われました。どの班も被害木の多さにシカ被害の深刻さを実感していたようです。

今回参加した次代を担う若い力が、新たなICT技術などを取り入れ、シカ被害対策を変えてくれることを期待して、学習会を終了しました。



苦戦しながら本立てを制作

【西都児湯森林管理署】  
11月14日、西都市立穂北小学校の5年生を対象に、当署及び西都市みどり推進会議（西都市議会、西都市農林課、西都木材青年会）の共催による「木と子供のふれあい教室」を開催しました。

冒頭、富永雄二署長から「このふれあい教室をきっかけに、木や森の働きなどについて学んでもらいたい」との挨拶。つづいて石原春菜森林整備官補、林田胡桃技官から森林の多面的機能や林業についての説明、国有林野職員の仕事の紹介等を行い、子どもたちも引き込まれるように話を聞いていました。

質問コーナーでは「日本一高い木は何メートルですか」など、生徒から多くの質問が寄せられました。また、木工作コーナーでは、職員



穂北小の生徒の皆さん



樹木にかたどった寄せ書き

等のサポートのもと子供たち同士で助け合いながら一人ずつ木製本立ての製作を行いました。完成後は、「釘打ちで少し腕が疲れたけど、工作は楽しかった」などと喜びの声があがりました。

私たち職員も、地元の元気な小学生たちとのふれ合いにより、気分が少し若返るとともに、豊かな森林を将来世代に引き継げるよう日々の仕事に励んでいきたいと気持ちを新たにす機会となりました。

## 阿蘇・くじゅう国立公園内のクリーン活動を実施

【大分西部森林管理署】

11月15日、大分県九重町の牧ノ戸峠周辺の国有林において、環境省、大分県、九重町、当署の関係事業体のボランティア、大分森林管理署の協力を得て、当署職員を合わせた総勢60人でクリーン活動を実施し、不法投棄されたゴミを回収しました。

当日は、長者原の駐車場に集合し、平井郁明署長より「国有林内に沢山のゴミが捨てられています。作業にあたっては怪我をしないよう安全なゴミの回収をお願いします」と挨拶

があり、その後、渡邊昭伍森林技術指導官より作業方法について説明を受けました。

今回のクリーン活動は、阿蘇・くじゅう国立公園内の県道11号線（通称「やまなみハイウェイ」）沿いの国有林内に不法投棄箇所が駐車場周辺の2箇所で見られたことから、2班に別け作業を実施しました。作業箇所には、空き缶やペットボトルなどの一般ゴミだけでなく、テレビビデオデッキなどの家電ゴミや大量のタイヤまで投棄されていたことから、ゴミを入れた大型土のう袋をユニック車で回収する一方、ロープを使いタイヤを引き上げるなど、急斜面で足場の悪い中を苦労しながら約2時間の作業で、4トントラック4台分のゴミを回収・分別して、処理施設へ搬入することが出来ました。



作業方法を説明する渡邊森林技術指導官



回収したゴミを分別



ゴミを回収する参加者の皆さん

当日は、地元テレビ局2社の取材を受け、不法投棄の状況やゴミ回収作業の様子、当署職員へのインタビュー

が夕方のニュースで放送されました。ニュースでは、牧ノ戸峠を訪れた観光客へのインタビューもあり「癒しの場所です汚いものを見るのは残念」との声もありました。作業終了後、玖珠森林事務所堀田信広首席森林官より「皆様のご協力で大量のゴミを回収することができました。今後もパトロールを強化し、不法投棄対策に取り組んで参ります」と参加者へお礼の挨拶がありました。

当署では引き続き、地元自治体、関係団体と連携した国有林内のクリーン活動を展開していくこととしていきます。

## 国有林クリーン活動を実施

【佐賀森林管理署】

11月21日及び28日の2日間、唐津市虹の松原内と武雄市鐘撞谷国有林内において、「漂着したゴミ」や「不法投棄されたゴミ」を回収しました。

1日目は、虹の松原内の汀線ゾーンを中心に行い、唐津市地域交流部から江頭雅彦部長をはじめ7名、当署から白石健二署長をはじめ12名、



虹の松原内で回収したゴミ



唐津市地域交流部の皆さんと署の職員



鐘撞国有林内で回収したゴミ



鐘撞国有林内のゴミの回収

総勢19名でクリーン活動を実施しました。  
回収したゴミは、唐津湾から吹

く風によって運ばれた発砲スチロール製品や、ペットボトル、空き缶、また大きなものは建設資材など軽

トラック3台分を回収しました。2日目は、武雄市の鐘撞谷国有林において、当署職員9名により、不法投棄されたゴミを回収しました。

現地は、人目に付きにくい市道から投棄され、家電、タイヤ、椅子、空き缶、空き瓶などが散乱しており、職員の手により道路まで引き上げました。回収したゴミは軽トラック2台分になりました。今回のクリーン活動によって、元通りの「美しい景観の海岸林」と「ゴミのない美しい森林」を取り戻しました。

今後、当署としましては、日常の巡視業務を継続するとともに、地元自治体等の協力も得ながら引き続き不法投棄防止に取り組むこととしていきます。

## 連合の森で列島 クリーンキャン ペーンを開催

【熊本森林管理署】

11月19日、分収造林契約を締結している阿蘇深葉国有林内の「連合の森」において、当署、連合菊池阿蘇地域協議会関係者、総勢41名が参加して同森区域内に作設さ



紅葉の中で楽しく作業する参加者の皆さん

れている森林歩道の修繕作業を行いました。これは、同協議会から、例年恒例となっている列島クリーンキャンペーン行事を行うにあたり、当署に対し技術指導等の協力依頼がなされ開催に至ったものです。当日は、高瀬智晶総括森林整備官の司会進行に始まり、井上智晴署長が「「3密」でない森林空間での楽しみ方として、森林の様々な利用方法も注目されており、感染リスクの低い森林の中でおおいし空気たくさん吸って心も体もリフレッシュして下さい」と挨拶しました。渋谷英行同協議会議長は、当署に対する感謝を込められ、「今回で28回目となるこの取組は、自然環境保全活動として大変歴史のあ





参加された皆さんで記念撮影

る地域に根付いた活動であり、皆さんと共に学びと経験を深めさせて頂ければと思います」と挨拶されました。

その後、参加者全員で、区域内の古くなった歩道斜面の階段を、山鍬やカケヤ等を用いて階段作設用に準備された丸太と杭の付け替え作業を行いました。

当日は、晩秋の紅葉の中で心地よい汗を流しながら、事前に準備された補修のための材料を全て使い切り、復旧された歩道散策に満足げな表情が伺える有意義なイベントとなりました。



上村 理子さん

こんにちは。私は、大学で森林や林業について勉強中の学生です。授業では、植栽から伐採までの技術や測量技術、森林法などの法律や生態系などについて学んでいます。森林については勉強しようかと思った理由は、山や自然に囲まれて仕事をしたいと思ったからです。私自身、育ちが福岡の田舎だったこともあり、働くなら親しみのあつる山や森林の中で働きたいと思っています。

国有林は、授業内でもよく出てくるワードの一つであり何度か測量や観察で入ったことのある場所でもあります。国土の約2割を占める国有林は、国土保全の観点からも、災害防止の観点からも非常に重要な役割を果たしていると考えています。また、森林には木材を生産するほかにも多様な生物の生育地や水資源を蓄えるダム機能、景観やその環境で人を楽しませ、リラックスさせるような機能など、多くの機能を備えています。しかし、森林は適切に管理しなければ過剰な伐採や開発によって荒廃す

森について学ぶ

る可能性ががあります。特に最近では戦後の再造林期に植栽された樹木が収穫期を迎えていることもあり、伐採に積極的になってきている動きもあると聞いています。そのため、国有林をはじめとして森林は持続可能で適切な管理が必要であると強く感じています。

さて、私が国有林モニターに応募したきっかけですが、はじめは教授からの紹介によるものでした。森林について学ぶ学生の一人として、国有林や森林における活動について知ることは今後の研究や勉強に役に立つだろうという動機や、授業で出てくる国有林の現在の活動について知りたかった動機があり応募しました。実際に資料を読んでみて、林野庁から発行されるというところで、堅苦しい資料なのかと考えていましたが、写真やイラストなどがあり、とてもわかりやすい資料だと感じています。また、森林分野は比較的マイナーな分野なのかと考えていたこともあり、自分が考えていたよりも森林にまつわるイベントが開催されていたため、実際に参加してみたいと思つたようにもなりました。

森林・林業について知れば知る

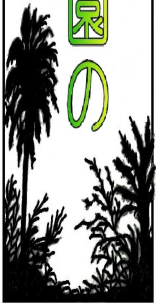


モニターの上村さん

ほど、この業界が広いこと、そしてとても興味深い分野であること、強く感じます。これからの日本や世界が自然とともに持続可能な環境づくりを進めていくためにも森林・林業について多くの人に知ってもらうことが必要です。そのためにも、私は今の環境でもっと知識や技術をつけていこうと思つきます。

(鹿児島県鹿児島市在住)

# 監物台樹木園の 多様な植物



## 181 ユキヤナギ (バラ科)

ユキヤナギは見かけによらず強健で、生育も非常に旺盛なので、花後に地際から刈り込んでも、秋までに新梢が1m以上伸び、翌年もよく開花します。我が家にもあるのですが花後、刈っても瞬く間に伸びて藪状になり、見苦しい限りです。しかし花はきれいで、幹全体に白い小花を雪が積もったように咲くので鑑賞には最高です。



枝は細ながく傾斜して立ちます。高さ2mぐらいいになり束生します。葉は互生して数多くの小形の狭披針形、鋭頭、基部は次第に狭くなり、縁には細かい鋸歯があり、葉質は膜質でほとんど無毛です。春、新葉が出ると同時に、前年の葉腋に無柄の白色の小花を3〜7個、傘形状につけ、花序は枝上に連続して並



【掲載終了のお知らせ】  
平成19年7月号から掲載してきました「監物台樹木園の多様な植物」について、樹木園の台帳に記載された樹木が今月号で最後となりましたので、掲載を終了させて頂きます。  
15年6ヶ月の長きにわたり、本シリーズを御愛読して頂き誠にありがとうございました。



び、全体として穂状になります。また、花の咲く枝の葉は極めて短く、花の付かぬ枝の葉とほぼせんせん違いです。和名は、葉がヤナギに似て、白い多数の花が、雪をかぶったように見えることから付けられました。

森林インストラクター  
安楽行雄



今年も残り二十日余り、大掃除をしていると「花意竹情(かいちくじょう)」と書かれた色紙が一枚、頭の上に落ちてきた▼宋の詩人、蘇軾が詠んだ詩の一節で、「花のように気高く優しく、竹のように真っ直ぐでしなやかな心」の意味を持つ▼私自身の国有林野人生を振り返ると、各駅停車する鈍行列車のような時の流れに、花と言ったら徒花を咲かせ続け、真っ直ぐには進まず葛のように複雑に絡み合いと、到底「花意竹情」に及ぶところでは無く、お恥ずかしい限りである▼そんな時間の使い方をした職場で得た財産は何か無いかと考えれば、「人と人との繋がり」が唯一無二の財産と思えてくる▼あなたの付けた足跡にや、綺麗な花が咲くでしよう、五十代後半の職員はご存じかも知れないが「三百六十五歩のマーチ」の歌詞の一節▼現職として過ごす一万五千三百四十日も残り百日少々、花意竹情のように綺麗な花を咲かす時間は無いが、綺麗な花の種まきには、まだまだ時間がある▼次代に引き継ぐ「なんさま前に」の仕掛けは何か。どんな種をまこうか。考えるだけでもワクワクしてくる。そんな気持ちで、これからの時間を大切にしたい▼但し、「徒花」の種まきはしないのでご安心を・・・